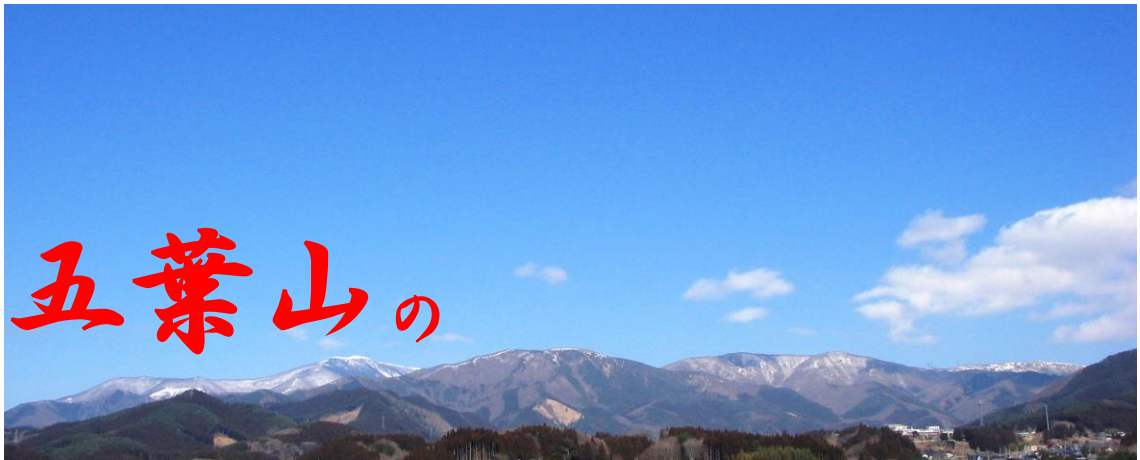


唐丹の民話・5話「荒川地区」



五葉山の



石仙と



石神と



平成18年10月

唐丹・愛ちゃんネットパソコンクラブ

目 次

一五葉山の石仏と石神と一

唐丹民話の再話著作にあたって	2
1. 霊峰五葉山	4
2. 石仏のはなし	4
(1) 石仏の向きで、町が繁盛	4
(2) 姿を消した？石の仏さま	4
3. 石神のはなし	5
(1) 山は女人禁制	5
(2) 勝ち気が仇か	5
4. 石の仏さまの像について	5

唐丹民話の再話著作にあたって

唐丹公民館の自主パソコンクラブ（設立：平成17年6月／名称：唐丹・愛ちゃんネットクラブ）では、パソコンによる文章作成を習得した証と民話を伝承する狙いを含めて民話の再話著作活動を実施しました。

文章作成の教材は、釜石民話の会（平成2年発足）の機関紙「釜石民話」を活用させていただきました。

この釜石民話の中から、唐丹に関り、かつ再話できるものを選び。その根底にあるものを変えないことを基本に「見やすく」、「読みやすく」、「分かりやすく」するために小見出しを付け、写真や絵図などを挿入。できるだけ、関連する歴史や実話を織り込みながら作成しました。

いつの日か、この冊子が誰かの目に留まり、唐丹にもこんな話があったのかと唐丹の「いにしえ」に想いをはせる一助になれば幸いと思います。

おわりに、この活用させていただいている民話は、釜石民話の会会員でありました唐丹町片岸の加藤ムツさんが採録（聴き取り）したものであり、第1集から第6集に掲載の民話の数は92編を数えます。

加藤ムツの民話を伝承したいという、この熱意と努力に敬意を表するとともに、故人となられました加藤ムツさんのご冥福をお祈り申し上げます。

なお、この物語の「五葉山の石仏と石神と」は、釜石民話第1集「五葉山の石仏・その一とその二」を再話著作したもので、その原文は次のとおりであります。

☆その一

五葉山には等身大の石仏があったそうです。山を知るものには山に登った折、その石仏を拝み、ひそかに唐丹のほうにむけておきますと、その年は唐丹が繁盛し、上有住のほうに向けて置くと、上有住が繁盛すると言い伝えられてきましたが、いつのころからか、その石仏がみあたらなくなったそうです。

その言い伝えを信じて、探し歩いた人がいて、等身大ではないけれど、五十センチぐらいの同じ顔の石仏を四体見つけたということです。五葉山の下方に一体、中腹に一体、山頂に二体あったそうです。

☆その二

五葉山は、女人禁制の山でした。その五葉山の千メートル付近の畳石を過ぎた、千二百メートルの地点に、石を祀った小さな祠があります。

その場所は、老婦人が女人禁制を知らなからぼってきて、その地に達したときに大きな石が、老婦人におおいかぶさり死んで石になったということです。

いまでも、女のおっぱいの形をした、ふくらみのある石があるということです。

五葉山の石仏と石神と

1. 霊峰五葉山

五葉山は、標高1351メートル。中古の昔、坂上田村磨^{さかのうえのたむらもろ}が蝦夷平定^{えぞ}の際、この山に祈願をこめて祠を献じたとか……。頂上には、日枝神社を祀られ、広く県内外の人々から信仰される霊峰です。



(五葉山の遠景と日枝神社)

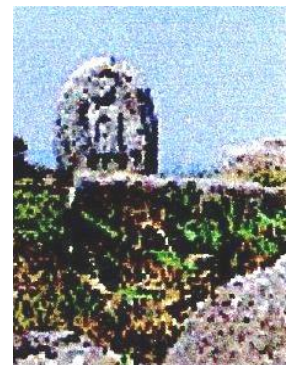
2. 石仏のはなし

(1) 石の仏さまの向きで、町が繁盛

この五葉山に、人の体ぐらいもある、石の仏さまが有ったそうです。

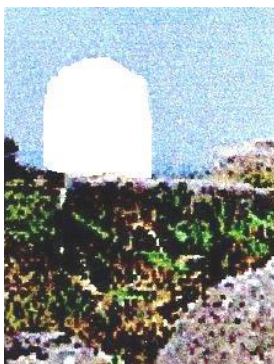
この山の謂れをよく知る地元の人が登った時は、密かに、この石の仏さまを拝んでいたといいます。

その謂れは、唐丹の人が、この山に登って、人に知られないようにそっと、石の仏さまを唐丹の方に向けておくと、唐丹が繁盛。上有住の人がこの山に登って、石の仏さまを上有住の方に向けておくと、上有住が繁盛したからだと言われていました。



(石の仏さま)

(2) 姿を隠したか？石の仏さま



(消えた石の仏さま)

いつの頃からか、この石の仏さまは、動かされるのが嫌になったのか、いなくなっていました。

この言い伝えを信じた人が、山に登って捜し歩いたところ、人の体ほどではないが、50センチメートルぐらいのよく似た石の仏さまが、五葉山の麓で一体、中腹で一体、山頂で二体見つけたそうです。

さて、その見つかった石の仏さまによる、その地域の繁盛の謂れは、いきているのでしょうか？

「石仏」のはなし……どんとはれ

3. 石神のはなし

(1) 山は女人禁制

昔むかし、女の人が五葉山に入ると「けがれる」といって、女の人が山に登らない風習がありました。



(豊石)

ある日、勝気な地元のばあさんが、この風習を知りながら何を思ったかこの山に登ってきました。

山の高さが千メートルの豊石を過ぎ、千二百メートルぐらいの所に石の神さまを祀ってあるほこら祠があります。

(2) 勝ち気が仇か

ばあさんがその祠にさしかかった時、山の「タタリ」か、突然、大きな石が、ばあさんに覆いかぶさるように落ちてきました。

勝ち気が風習を侮り、それが仇になったか、ばあさんは死に、そのまま石になってしまいました。

この石の神さまの祠周辺には、女の人のおっばいのように膨らみをもった形の石があるということです。



(石の神さま)

「石神」のはなしも…どんとはれ

4. 石の仏さまの像について



五葉山の石仏について、釜石山岳会の方など2, 3人の人に尋ねましたが、分からないとのことでした。

この石仏の写真は、インターネットで五葉山を検索中に、寄稿文の中から偶然に見つけたものです。その文章との関わりも感じられず、コメントもありませんが、イメージ像として引用させていただきました。

みんな…どんとはれ

◎釜石の民話・第1集：五葉山の石仏

○話し手：伊藤要太さん／川目

○聴き手：加藤ムツさん／片岸

●再話著者：高橋昌子／小白浜地区（唐丹・愛ちゃんネットパソコンクラブ）
：新沼 裕／本郷地区（同上）

●写真撮影者：新沼 裕／本郷地区（同上）

●校正指導者：新沼 裕／本郷地区（同上）

●再話完成：平成18年10月